

## ヤマセミ



鳥取県指定準絶滅危惧種

落合にて

(撮影：桐原佳介)

「ケレット、ケレット、ケレット」と鋭く鳴きながら、川面を軽やかに飛んでいくヤマセミ。一年中日本で生きている留鳥ですが、寒くなると法勝寺川水系の周辺でよく見かけます。川の近くをよく注意してみると、頭が爆発したように見える白っぽいハトのような鳥が、電線や川面にかかる枝などに止まっていることがあります。町内では決して珍しい鳥ではありませんが、驚いたことに「レッドデータブックとつとり」によると、昭和44年から平成14年の33年間、南部町内の記録が全く残されていませんでした。

ヤマセミは白と黒の鹿子模様が美しいことから、カノコシヨウビンとも呼ばれています。日本のカワセミ類の中で最大です。オスにはあとと胸のところにおレンジ色の羽が混じっています。国外ではアフガニスタン、ベトナム中部から中国南部などに分布しています。空中から川に飛び込んで魚を捕まえるのが得意な鳥です。

彼らは、土がむき出しになっている崖の高いところに、横穴を掘っ

て巣を作ります。私は、以前見つけたカワセミの巣穴がある秘密の場所に様子を見にいったことがあります。すると、1年前はなかったはずの、ソフトボールが入るくらいの穴が、カワセミの巣のそばに掘られていました。「まさかヤマセミの巣穴かしら？」と、その時は信じられませんでした。カワセミの仲間はとても警戒心が強いので、子育て期間は巣に近寄るのを控え、半年後くらいにまた様子を見に行きました。すると、新しい巣穴の下に、なんとヤマセミの羽が1枚落ちていたのです。よく見ると、それは尾の羽でした。子育てに成功したかどうかは分かりませんが、少なくとも巣穴に出入りしていたことは間違いなさそうです。町に流れる川に、餌となる魚が多く生息しているからこそ、ヤマセミも生活することができそうです。彼らもまた町の豊かさの象徴です。これから季節、双眼鏡を携えて川の土手を散歩しながら、「溪流の貴婦人」を探してみませんか。

自然察指導員 桐原真希